

佐賀県立博物館報 №52

佐賀市城内1丁目15番23号 TEL 0952(24)3947

マドリッドの女

高さ 三二・二cm

古賀忠雄は造形のたくましさを表現した作家である。と同時に、造形に素材の原点を求めた彫刻家であった。牛を題材にとった作品が多いのもこのためである。

しかし、この作品のように、私たちに像の表情に見入ることを教える作品がある。むしろ彼の後年の作品はこのような傾きがあり、このことは、作品の題が説明的、具体的なものから簡潔、抽象的なものへと変わっていったことからもわかる。「マドリッドの女」は忠雄61歳の折の作品で彼の願想的像のひとつである。



目次

○マドリッドの女.....	1
○開催要項・略年譜.....	2
○古賀忠雄彫塑作品.....	3~4
○山口猛彦油彩画作品.....	5
○仏像彫刻の調査記録.....	6
○佐賀県内所在博物館等施設紹介.....	7
○行事のお知らせ.....	8

古賀忠雄彫塑展・山口猛彦洋画展開催要項

名称 「古賀忠雄彫塑展」「山口猛彦洋画展」
 会期 昭和56年4月18日(土)→5月10日(日)
 (休館日 4月20日、27日、5月6日)
 会場 佐賀県立博物館

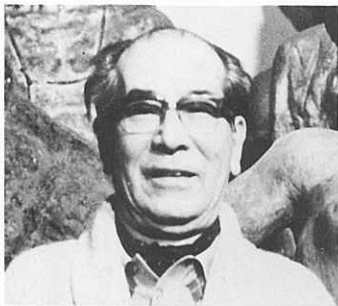
展示内容

古賀忠雄彫塑展 ブロンズ38点、石膏60点
 その他デッサン等40点
 山口猛彦洋画展 油彩画 40点
 スケッチ 12点

主催 佐賀県教育委員会 佐賀県立博物館

観覧料

一般 250円 (200円)
 大高生 150円 (100円)
 中小生 100円 (60円)
 ()内は団体20名以上



古賀忠雄氏

主旨 彫塑界に大きな足跡を留めた古賀忠雄(1903～1979)の遺作は、昭和55年4月、出生地佐賀県に、石膏像136点、ブロンズ像19点をはじめスケッチ帳など総計233点が寄贈された。

このたびの展覧は、寄贈作品の代表作を中心に、県で製作したブロンズ像等を加え故人の業績を顧みようとすることである。

洋画家、山口猛彦(1903～1979)は古賀忠雄のひと月前に伊万里市に生まれ、晩年は日展作家として活躍した。奇しくも山口が逝ったのも古賀と同年の同じ月であり、二人の芸術家は、彫刻と油絵という分野で、互いに響き合った足跡を残した。この展覧では山口猛彦の画歴を通してその代表的作品を紹介し故人の業績を顧みることである。



山口猛彦氏

古賀忠雄略年譜

明治36年 佐賀市水ヶ江に生まれる
 大正15年 23歳 佐賀県立有田工業 国家絵画科卒業
 東京美術学校彫塑科入学
 昭和4年 26歳 美校在学中、第10回帝展「仏心」初入選
 昭和5年 27歳 東京美術学校彫塑科卒業
 昭和7年 29歳 帝展第13回「丘」以後、毎回出品する
 昭和14年 36歳 文展第3回「脚の男」で特選受賞
 昭和16年 38歳 決戦美術展「独立ビルマ」(朝日新聞社賞)
 昭和17年 39歳 文展第5回「建つ大東亜」帝国芸術院賞受賞
 昭和23年 45歳 日展第4回「夏の作」(日展審査員)政府買上げ
 昭和29年 51歳 日展第10回「漁夫三想」(日展参事)
 昭和33年 55歳 新日展第1回「シヤモと男」(評議員、審査員)
 昭和37年 59歳 読売ランドに「戦前から立ち上がる日本」を建設
 昭和38年 60歳 スペイン・フランスなど歴訪
 昭和39年 61歳 日本彫塑会委員長となる
 昭和42年 64歳 日展理事、日本芸術院会員となる
 昭和48年 70歳 勲三等瑞宝章拝受
 昭和49年 71歳 佐賀市嘉瀬町の森林公園に「森の幻想」完成
 昭和50年 72歳 佐賀県立博物館前庭に「脚の男」据付
 昭和51年 73歳 佐賀県総合グラウンドに「想」を建つ
 昭和54年 76歳 6月10日 東京板橋の日大附属病院にて逝去

山口猛彦略年譜

明治36年 佐賀県伊万里市に生まれる
 大正10年 18歳 (旧制)佐賀県立佐賀中学校卒業
 大正12年 20歳 東京美術学校西洋画科入学 藤島武二に師事する
 昭和3年 25歳 東京美術学校卒業後、長野県立松本中学校校画教師となる 2年後退職して上京、制作に専念する
 昭和8年 30歳 帝展第14回「黒い風景」で初入選
 昭和15年 37歳 光風会会員 興亜院の委嘱により中国大陸に渡り奉祝展にその作品を出品する
 昭和18年 40歳 文展無鑑査 陸軍報道班員として南方に従軍 21年帰還
 昭和24年 46歳 第35回光風会展で特選受賞
 昭和26年 48歳 日展第7回「黒い椅子の部屋」で特選受賞
 昭和36年 58歳 第1回渡欧(フランス、スペイン、イタリア等)
 昭和40年 62歳 日展審査員
 昭和46年 68歳 第2回渡欧
 昭和47年 69歳 日展審査員
 昭和52年 74歳 第3回渡欧
 昭和54年 76歳 6月6日 東京府中の都立府中病院にて逝去

古賀忠雄彫塑作品



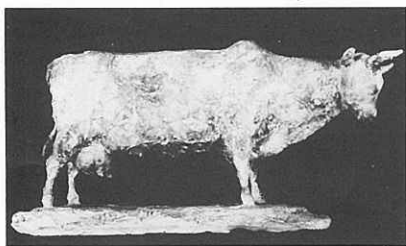
1.



2.



3.



4.



5.



6.

- | | |
|-----------|------|
| 1. 炭鉱夫 | 1937 |
| 2. 知多の漁夫 | 1952 |
| 3. 太陽を知る男 | 1968 |
| 4. 聖牛 | 1970 |
| 5. 庄 | 1967 |
| 6. 牧場の朝 | 1972 |

古賀忠雄陶塑作品



スケッチ帳より

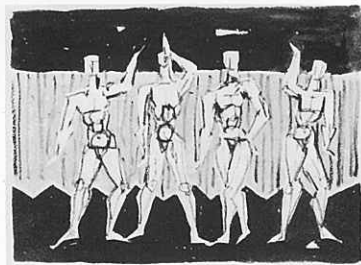
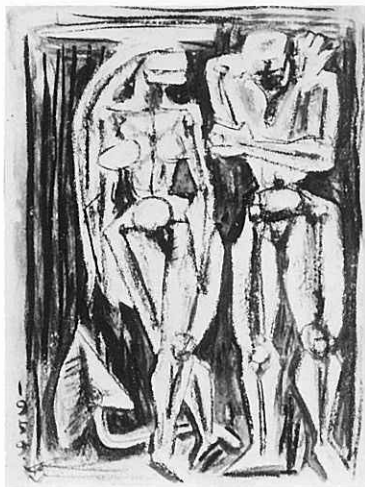
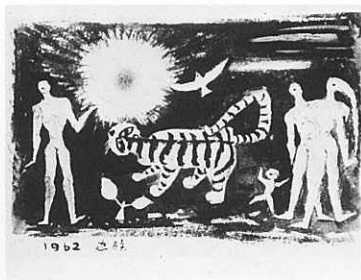
私は、家にも、どうも、だまっていることの出来ない性分で、何かやっていたらいいのです。

彫刻家として、作意にさまざまな課題があると思うし、好きであること、必要であるから、創作の上に、私なりに色々な工夫をしているのです。

私の素描癖はこんなところからでしょう。

いろいろな面に役立っています。

(「月刊美術グラフ」昭和37年)より



山口猛彦油彩画作品



1.



3.



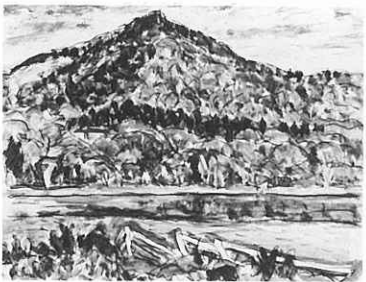
2.



4.

1. 秋果 1948
2. 街角 1961
3. 晩秋 1962
4. チュイレリーの秋 1978

スケッチ帳より



仏像彫刻の調査記録

木造十一面観音立像 平安時代後期

小城郡小城町馬場 岩蔵寺

像高 84.0センチメートル

本像はヒノキ材、彫眼、背割りはなく頭・体部がつづいた一本造りである。現在、像の表面は黒味を帯び古色を呈しているが、以前これが彩色像であったか否かについては不明。両腕とも肩口から欠失している。像は立像で、顔は正面を向き足納によって蓮華座上に立っていたものと思われる。像名は頭頂と、天冠台に沿った部分に化仏を取り付ける11個の納穴のあるところから十一面観音であろう。本像の技法としての特徴は一本造りで、天衣も胴の外側に共木から彫り出していることであり、また条帛や天衣や裳の折り返しの衣文の彫りを浅く単調に表現しており、体軀は肉付きも少なく、すんなりと平面的に仕上げていることである。耳葉には穴はあけられていない。体側の天衣の内側、髻、耳葉の仕上げは雑で荒いノミ跡を残している。

像の構造は先に記した通り頭・体部・脚まで一木造り、

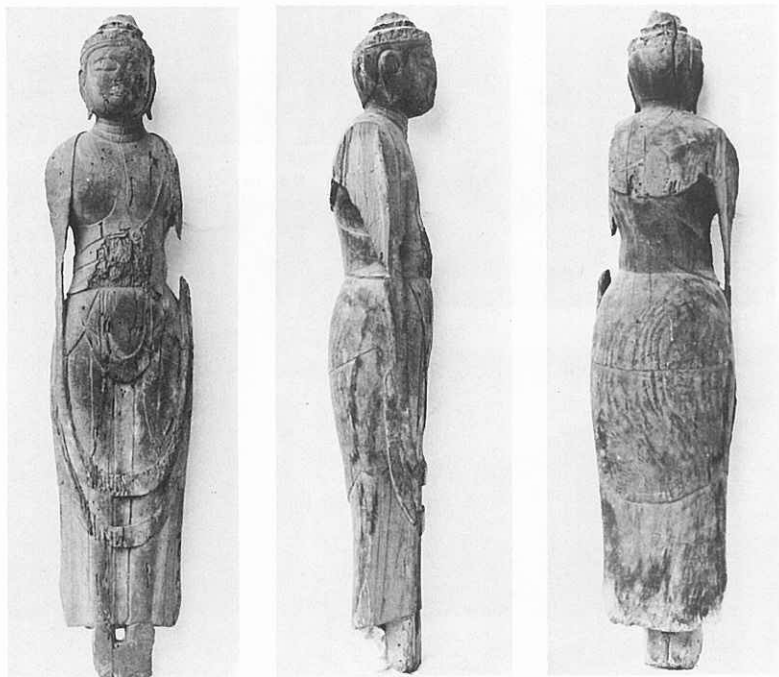
彫眼、肉削りなしで、足先だけが刳付けであるが、これは双方とも欠失している。両腕の構造はともに肩口から欠失しているので不明。化仏を挿す納穴が頂部1個、正面に1個、その左右に各4個、後頭部に1個、合計11個穿たれているが化仏は全て失われている。用材の木芯部は像の中心部を避け左肩後にもってきている。

岩蔵寺は天台宗に属し延暦22年(803)に聖命聖人によって創建されたと伝えられている古寺である。本寺には

木造	伝阿弥陀如来坐像	平安時代	作
木造	制吒迦童子像	平安時代	作
木造	阿弥陀如来像	鎌倉時代	作
銅像	毘沙門天立像	鎌倉時代	作
木造	阿弥陀如来坐像	室町時代	作

等の優れた仏像彫刻が伝存されている。

法量	髮際下	77.5	面長	8.0
	面幅	9.0	胸厚	12.5
	腹厚	12.2	腰幅	21.0
	腰厚	13.5	裾幅	17.8



西有田町歴史民俗資料館



- 所在地 西松浦郡西有田町大木乙2208の1
TEL 095546-2111 (代表)
- 交通の便 国鉄蔵宿駅下車徒歩15分、西肥バス西有田町役場前下車徒歩1分。
- 開館時間 午前9時～午後4時(土曜日は12時まで)
- 休館日 日曜日、国民の祝日、12月29日～1月3日
- 入館料 無料
- 設置の事由と目的

西有田町内各地に散在する多くの考古資料・歴史資料・民俗資料が、開発事業や社会環境の変化のため破壊消滅しつつある現在、各遺跡から出土した遺物や各種民俗資料等は、取蔵庫がないため保管・管理ができない状況であった。

そこで、これらの各種文化遺産を保存・保護すると共に町民に顕彰する目的のため、歴史民俗資料館が建設されたのである。

○設立の経過と特色

西有田町は佐賀県の西端に位置し、黒髪山に源を發した有田川が町の中央を蛇行しており、有田川の浸蝕作用によって形成された帯状の平地に、現在の農業を主体とした集落が位置する。この有田川は、西有田地方における文化の形成に大きな役割をはたしており、川の両岸には旧石器時代から縄文時代、さらに中世から近世にかけての各種遺跡が密集している。



特に国見山系では、佐賀県内において最初に発見された盗人岩洞穴があり、標高100mの地域には縄文時代早期の住居跡が確認された伊古石遺跡や、縄文時代食生活の一端を知ることのできる貯蔵穴が発見された坂の下遺跡等が分布している。また、中世になると有田氏の居城であった唐船城が有田川の中流に位置し、近世の窯業生産の実体を知るに可能な広瀬山古窯群や迎の原古窯、原明古窯等が点在する。

このように、永い年月を経て作りあげられた西有田地方の文化と生活様式は、西有田町教育委員会によって地道な調査と資料収集が実施されていた。そこで、これらの多くの遺跡から出土した考古遺物や、農具を主体とした民俗資料を収集・保管し展示することによって、文化財に対する町民の意識の高揚をはかる資料館の建設が望まれていた。昭和50年3月に、西有田町文化財保護委員会はこれらの目的を達成するために、文化庁が計画を進めている歴史民俗資料館建設の請願を行ったのである。昭和52年9月西有田町は、西有田町公民館に隣接する場所に鉄筋コンクリート高床式平屋建て建設を開始し、昭和53年11月18日には歴史資料展示室と民俗資料展示室の2室からなる「西有田町歴史民俗資料館」が開館した。

資料館は、「西有田の歴史と民俗」の常設展示を中心的な展示としている。歴史資料は、町内各地で採集された考古資料と各古窯から発掘された陶磁器資料を中心とし、民俗資料は、主要産業の一つである農業や林業に伴う各種道具を中心に、農家で使用された日用品を展示している。収集された展示資料は豊富で一見する必要があると共に、収集にたずさわった人々の努力がうかがうことができる。

○施設の概要

建設面積	339㎡	歴史展示室	100㎡
		民俗展示室	100㎡
		取蔵庫	50㎡
		ロビー	25㎡
		調査室	21㎡
		暗室	4㎡
		事務室 他	39㎡

○主な展示資料

- ・西有田町内各地で採集された土器や石器
- ・盗人岩洞穴出土品
- ・坂の下遺跡出土品
- ・迎の原古窯跡出土品一括
- ・原明古窯跡出土品一括
- ・広瀬山古窯跡群出土品 ・ 鉾石や化石
- ・農機具一式 ・ 漢方医諸道具
- ・山権関係用具一式 ・ 古記録類

昭和56年度行事のお知らせ

常 設 展 (原則として月曜及び祝日の翌日休館)			
佐賀県の歴史と文化展	4月1日(休)～5月10日(日) 7月8日(休)～9月27日(日) 12月13日(日)～3月31日(休)	大 人 50(30) 大・高生 30(20) 中・小生 20(10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から現代にいたる歴史と文化についての、理解を深めるために自然史、考古、歴史、美術工芸、民俗の各部門について、系統的に資料を展覧する。

企 画 展 (原則として月曜休館、月曜祝日の場合は火曜休館)					
展覧会名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金	展覧会名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金
古賀忠雄彫塑展 山口猛彦洋画展	4月18日(土)～ 5月10日(日)	一 般 250(200) 大・高生 150(100) 中・小生 100(60)	近代の日本画展	10月8日(休)～ 11月3日(日)	一 般 400(300) 大・高生 250(150) 中・小生 150(100)
第56回二科記念展	5月16日(土)～ 6月7日(日)	一 般 500(400) 大・高生 300(200) 中・小生 200(100)	佐賀県美術展	11月14日(土)～ 11月23日(日)	一 般 200(150) 大・高生 100(70) 中・小生 50(30)
佐賀美術協会展	6月18日(休)～ 6月28日(日)	無 料	佐賀県高等学校芸術祭書道、美術部門展	11月28日(土)～ 12月4日(日)	無 料
緑光会展	7月1日(休)～ 7月5日(日)	無 料	佐賀県学童美術展	12月13日(日)～ 12月18日(日)	無 料
二科会佐賀支部展	7月15日(休)～ 7月19日(日)	無 料	書 初 展	1月17日(日)～ 1月21日(休)	無 料
独立CS展	7月22日(休)～ 7月26日(日)	無 料	佐賀県勤労者美術展	1月30日(土)～ 2月4日(休)	無 料
七夕書道展	7月30日(休)～ 8月2日(日)	無 料	九州グラフィックデザイン展	2月9日(休)～ 2月14日(日)	無 料
書作家協会展	8月5日(休)～ 8月9日(日)	無 料	佐賀大学教育学部美術工芸科卒業制作展	2月20日(土)～ 2月24日(休)	無 料
九州新工芸展	8月21日(日)～ 8月30日(日)	無 料	岩永京吉・太田香雲展	3月11日(休)～ 3月14日(日)	無 料
理科作品展	市・9月13日(日) ～9月17日(休) 県・9月19日(土) ～9月25日(日)	無 料			

(各展示会は都合により変更されることがあります。)

博物館報	第52号
発行年月日	昭和56年3月31日
編 集	永 原 正 隆
発 行	佐賀市内1丁目15～23
	佐賀県立博物館
印 刷	佐賀印刷社